

社会学委員会 東日本大震災後の社会的モニタリングと復興の課題検討分科会

(第24期・第2回) 議事要旨

1. 日時 平成30年2月16日(金) 10時00分～12時00分

2. 会場 日本学術会議 5-C(1) 会議室

3. 出席者

吉原直樹、岩井紀子、町村敬志、山川充夫、山下祐介、青柳みどり

(欠席)岩淵明、島菌進、増田聡、玉野和志

4. 議題

(1) 前回議事要旨の確認

議事要旨の確認を行った。

(2) 今期実施するヒアリングについて

・学術会議の対応として、震災対応にあたった前(元)会長の廣渡先生、大西先生にお願いする。また、本分科会メンバーの岩淵先生は、内閣府の関連委員をされているので、その関係のお話しをおねがいしたらどうか。

・吉原委員長から復興庁の生活支援チームへのヒアリングの調整中。あわせて分科会開催にできるよう準備。

・これまでの提言や23期の報告をヒアリング関係者に配布しやすいように冊子体(簡易版)を作成して配布する。

(3) 次回以降の予定

・これまでの震災関連の議論を『学術叢書』等にまとめる方向で活動をしたい(学術財団に問い合わせ)。そのためには、シンポジウムなどの開催で議論を深める必要がある。これについては、学術会議に開催予定を登録する。

・福島大学と共催で「震災関連記憶のアーカイブ作成」といったような内容で開催したらどうか。市町村レベル(大熊町など)、県レベル(福島県、県立図書館など)でアーカイブ化の動きはあるようだが、バラバラに進められるのは無駄も多いし、もったいない。また県のアーカイブは、復興公園(双葉町、浪江町など)の隣に建設という計画らしいので、これとの関係もある。国会図書館などはHPに関連書籍等あげている。各種資料がこれから庁舎の引っ越しなどで散逸する恐れがあり、その前に検討すべきだ。また、多くの研究者が現地に入って収集したヒアリングのテープなど、モノ以外のものも多くある。歴史学にとどまらず人文社会科学の立場から集める必要がある。

・今後の予定は大まかに以下のように決定した。

(3月 復興庁生活支援チームヒアリング)

4月 分科会会合（大西前会長のお話）

6月 分科会会合（廣渡元会長ないし岩淵学長のお話）

8～9月 ワークショップ（福島予定）

11月 分科会会合

1月 分科会会合

3月 分科会会合

#### （4）その他

今回は、復興庁ヒアリング時に合わせるか、もしくは4月の大西会長講演時に開催。

（月曜日の午前に都合の良いメンバーが多いので、月曜日午前を中心に調整）。